

札幌市立澄川南小学校の取組

(学校ホームページ：<http://www.sumikawaminami-e.sapporo-c.ed.jp/>)

1. 学校紹介

本校は、全 13 学級（うち特別支援学級 1 学級）で、全校児童が約 300 人という規模の学校です。児童の運動能力は全体的に札幌市の平均を概ね上回っています。休み時間には全員遊びなど、日常的に体を動かす子が多く、また、野球、サッカーをはじめ、バスケットボール、バレーボールなど放課後のスポーツ少年団活動も活発に行われています。



2. 取組のねらい

今年度は、「委員会活動を通じて、どのように取り組めば、子どもの体力向上につなげていくことができるのか」を考え、実践を積んできました。以下に取組のねらいを示します。

- ・運動に親しみ、自分の体力を進んで高めようとする意識をもつ子どもを育てる。
- ・目標をもって、児童自らが主体的に活動することができる児童委員会組織を育成する。

3. 委員会での取組

新学習指導要領の全面实施による授業時数の増加等の影響もあり、本校では以前に比べ、委員会やクラブ活動などの時数が確保しにくくなってきています。せっかく集会などの計画を立てても次の委員会まで 1 か月以上期間が空いてしまうこともあり、子どもたちの意識の継続が難しい状況が見られます。

そこで、所属した委員会の仕事を、当番制にして取り組むことができる「常時活動」と、集会やイベントなどを企画・実施する「スペシャル活動」の二つに分けて活動を進めることにしました。日常的にやるべき活動があることで、子どもたちの意欲も持続され、委員会の時間には日常活動の振り返りやスペシャル活動の計画などを行うようになってきました。

本校の児童会活動では、児童会書記局の他、体育・放送・図書・保健の四つの各委員会があり、それぞれの委員会で、独自の活動が行われています。中でも体育委員会では全校児童の健康や安全、異学年の交流を目的に集会活動などを実施しています。また、保健委員会では、全校児童が保健衛生と安全、健康について考えることのできる機会を作ろうと様々な広報活動を行っています。

4. 取組の実際

(1) 体育委員会「マラソン週間」

体育委員会ではマラソン週間を行いました。この取組は、体を動かす時間を増やそうと、委員会の子どもたちが企画したものです。

学校のグラウンドにコースを作り、時間内にコースを何周できるか記録する取組を 1 か月にわたり、毎週水曜日に実施しました。委員会の子どもたちがスタンプカードを作り、コースを



回った分だけスタンプを押していくようにしました。参加した子どもたちは「今日は5周がんばろう」などと具体的に目標をもって走っていました。全学年が一緒に走ることで、上の学年の子どもを目標に走る低学年の子ども姿も見られました（写真参照）。

また、スタンプが全てたまと委員会から賞状が届くようになっていて、それもまた子どもたちの意欲を高めることにつながりました。



（２）保健委員会「体力調べ」

保健委員会では「体力調べ」という取組を実施しました。一人一人が自分の体力について関心をもち、今後、伸ばしたい力を明確にしていくことで、運動により親しめるようにと考えて企画されています。



体力調べの会場は、腹筋、握力、ぞうきんレース、柔軟性チェック、バランスチェック、反復横とびの六つの場で構成されていて、

それぞれの場で測定した結果を委員会の子どもたちが作った用紙に記録することができるようにしました。（写真参照）

体力調べは、自分自身の今の体力状況が分かり、友達と記録を比べる中で新しい目標をもったり、今後自分で伸ばしたい体力を把握したりできる機会となりました。しかし、低中高の各ブロック別の実施し、各ブロック1日のみの開催だったため、全ての場を経験できずに終わってしまった子どもも多かったようです。



5. 今年度の取組の成果と課題

委員会活動を通して、子どもたちの中から自発的に体力向上に向けた取組が考え出されてきたことは、大きな成果でした。

教師主導ではなく、子どもたちが自発的に自分の体に関心をもって生活できるようになることは、生涯スポーツを推進していく上でも大切なことであり、体育委員会では、今後も「ケンパ集会」「バランス集会」（右写真）など様々な集会活動を計画し、実行していこうと考えています。

今回紹介した全ての取組は、委員会のスペシャル活動によって実施されたものですが、今後はイベント的な扱いではなく、毎週決まった曜日に継続して行う取組とすることが、体力を向上させていくために必要です。そのためにも、年度初めの委員会発足時の年間活動計画に、日常的に行う委員会活動として組み込んでいく必要があると考えます。また、保健委員会が体力調べを春と冬に行い、その間に体育委員会の常時活動として様々な運動の場を用意し、1年間の体力の伸びを子どもたち自身が実感できるようにすることなども必要と考えています。

